

インフォメーション

申込み・問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp

マキノワWEEK VOL.2 もっとつながる、もっとひろがる、まちづくりの輪

期間:2018年2月21日(水)~27日(火)
会場:仙台市市民活動サポートセンター

108万人が暮らす仙台では、社会の課題を解決したり、地域を元気にしたりする多種多様なアクションが展開されています。それらのアクションは、まちづくり、市民活動、ソーシャルビジネスなど様々な言葉で説明され、どこか自分とは関係のない言葉に聞こえるかもしれません。でも、始まりは「身近な人の困りごとを何とかしたい」「このまちをもっと良くしたい」など、一人ひとりの思いやアイデアから生まれた行動でした。昨年に続き、2回目の開催となる今回の「マキノワWEEK」は、一人ひとりのまちへの思いが「もっとつながる」「もっとひろがる」ことをめざし、7日間日替わりで、トークイベントや活動紹介、交流会などを実施します。会場の市民活動サポートセンターは、1月~2月に改修を行ったばかり。これまでとはちょっと違った雰囲気の中で、まちづくりに関わる人たちがつながり、まちづくりの輪をひろげませんか?ぜひ、ご参加ください。



マキノワブース

日時:2月24日(土)10:30~15:00
2月25日(日)10:30~15:00

会場:1階 情報サロン

内容:自分たちのまちや社会、暮らしの中から出てくる課題や問題に対して活動を行っている、さまざまな分野の団体がブースを出展します。活動している方のお話を聞いたり、雑誌を購入したり、ワークショップに参加したり、体験や交流を通じて市民活動やボランティア活動をしている団体のことを知ってみませんか。

※ワークショップは当日申込みです。

※各出展団体やワークショップの詳細は市民活動サポートセンターのHPでお知らせいたします。



つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい/団体を立ち上げたい/組織運営の悩みを解決したい/他の団体や他のセクターと連携したい/自分のスキルを地域や社会に役立てたい...

今月の休館日 2月14日(水)、28日(水)

開館時間 月曜日~土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ/地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分

[HP]http://www.sapo-sen.jp [Blog]http://blog.canpan.info/fukkou/ [Twitter]@sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日~2020年3月31日]

市民ライターや学生記者が、仙台の市民活動団体やワクワクビトを取材しています!

▶市民ライター

http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1

▶情報ボランティア@仙台

https://ja-jp.facebook.com/jyoho.volunteer.sendai

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。

▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート]サポセンホームページからアクセス
いただくか、携帯電話等で2次元バーコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター

発行日 2018年2月1日

編集 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター

デザイン PEACE Inc.

編集人 太田貴 菅野祥子 松村翔子 宮崎真央 小野真璃子

発行部数 3000部

配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと 2

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2018 No.222

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月の
ワクワク
ビト YouTuber
ダヴィデ ビッティ
Davide Bitti さん (32)

日本の日常を動画で紹介 イタリアと仙台を繋ぐ案内人

仙台在住のイタリア人留学生、ダヴィデさんは、国や文化の違いを越えて仙台の魅力を発信するYouTuberです。これまで300本以上の動画を、特にイタリア人へ向けて配信しました。より日常的な仙台の姿を伝えようと、レストランの取材では、注文方法から作り手の想いまでインタビューするなど工夫します。動画を見たことをきっかけに、仙台を訪れたというコメントが届くこともあります。

2008年に旅行で東京を訪れた際に撮影していた映像をYouTubeに投稿したことが活動の始まり。日本文学を学ぶため、2年後にローマ大学から交換留学生として来たのが仙台でした。交換留学を終えた後も、2015年に再び留学生として来仙します。「仙台は都会なのに自然があるのがすごく好き」と仙台に住み続ける理由を語ります。

土地の雰囲気は実際に訪れることで、肌で感じることが出来ます。「もっと多くのイタリア人が仙台に来て、まちの良さを体感して欲しい」。今後も情報発信に力を注ぎます。

取材・文 加藤 里香(宮城学院女子大学4年)

特集

若者の活躍に光を当てる

初開催! 「仙台若者アワード」

Vivi Giappone ヴィヴィジャポネ

https://www.youtube.com/user/ayasustanaN

2008年から開設しているYouTubeチャンネル。週2回、火曜日と土曜日に動画を配信中。不定期でライブ配信もします。チャンネル登録者数は約2万人。チャンネル名の「Vivi Giappone」は、「日本を生きる」という意味。動画を通して日本を見て、経験して欲しいという思いがこめられています。仙台を軸に日本各地に足を運び、各回テーマを設定してまちの魅力を紹介しています。現地にはないと思われる、郊外の情報も配信予定。

若者の活躍に光を当てる 初開催！「仙台若者アワード」

仙台若者アワード(以下、アワード)は、仙台市内に拠点をもち構成員の過半数が16歳以上30歳未満の若者を中心とする団体が行う社会や地域の課題解決に寄与する取り組みを表彰するイベントです。仙台は「学都仙台」と呼ばれ、多くの若者が子どもの教育支援、震災復興支援、まちづくりなどさまざまな活動を展開しています。地域の課題解決に力を発揮する若者に光を当てる協働の取り組みを紹介します。

仙台若者アワード実行委員会

地域から愛され地域のみなさまとともに発展する会社でありたい



コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社
総務本部 コーポレートコミュニケーション統括部
CSV推進部 地域共生課

シニアアソシエイト

えんどうたくみ
遠藤 巧 さん



若者の意欲を受け止め、地域に関わる機会を提供したい



一般社団法人ワカツク

代表理事

わたなべ かずま
渡辺 一馬 さん



コーディネーター

さわはたまなぶ
澤畑 学 さん

市民協働によるまちづくりを推進したい



仙台市市民局協働まちづくり推進部
市民協働推進課

主事

かとうけいご
加藤 圭吾 さん



主事

くまの しほ
熊野 志穂 さん

若者の応援に力を尽くす

アワードを主催するのは、仙台市、コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社(以下、コカ・コーラ ボトラーズジャパン)、一般社団法人ワカツク(以下、ワカツク)からなる、仙台若者アワード実行委員会です。「自分たちの活動を市民に拡散したい」、「他の若者団体とのつながりをつくりたい」など思いを持つ26団体からエントリーがありました。「当事者意識を持って活動しているか」、「活動を通じて自分たちに変化があったか」、「活動によって地域に影響を与えられたか」などの項目で行われた一次審査を通過した10団体が、一般公開プレゼンテーションによる最終審査に進みます。最優秀賞に1団体、優秀賞に2団体を選考。最優秀賞団体には団体PR動画の制作。またエントリー団体すべてを紹介する冊子を発行し、若者の取り組みを伝える工夫を凝らします。

仙台市の担当課である仙台市市民局市民協働推進課(以下、推進課)は、地域団体や市民活動団体、教育機関、企業、行政など多様な主体が力を出し合い地域の課題解決に取り組む、「協働によるまちづくり」を推進しています。加藤圭吾さんは「3者で力を合わせ、今後若者の活動がより広がるようなアワードにしたい」と語ります。

地域に向き合えばこそその協働

「若者を起点に、地域の課題解決にともに取り組みたい」と話すのは、コカ・コーラ ボトラーズジャパンの遠藤巧さん。同社はこれまで、主にイベントサポートや環境団体への助成事業などの社会貢献活動をしてきました。「もっと地域に根ざした会社を目指そう」と、行政やNPOとの協働によるプロジェクトを展開。2016年、若者の学び・体験支援プログラムとして、インターンシップ事業を福島県で実施してきました。その協働の取り組みが、他の地域展開の土台となりました。

ワカツクは、2011年から地元企業と若者をつなぐインターン事業を展開しています。東日本大震災では、学生など若者の活躍も大きく、「今後復興における役割が薄いでも、若者が地域に関わる動きを絶やしてはいけない」と、若者の活動を応援してきました。遠藤さんからNPO、行政、企業による3者協働の相談を受けたワカツク代表理事の渡辺一馬さんは、推進課に声をかけ、表彰企画を提案。地域で力を発揮しようとする若者と社会との関わり方のひとつを示すねらいがありました。

澤畑学さんはこれまでの活動から、「自分ごととして地域に関心を持ち、課題解決やボランティア活動をすることは、「意識高い系」の人がやることという見方も多く、外に出て活発に広報・交流しようとする団体も固定



連絡先 仙台若者アワード実行委員会 事務局(一般社団法人ワカツク)
〒980-0023 宮城県仙台市青葉区北目町4-7 HSGビル3F
TEL 022-721-6180(平日10:00~18:00)
Mail musubaru@wakatsuku.jp HP https://award.amebaownd.com/

【仙台若者アワード開催情報】
日時：2018年2月24日(土)15:30~
会場：仙台市市民活動サポートセンター 地下1階 市民活動シアター

化していた」と振り返ります。しかし今回、これまで知らなかった団体からのエントリーが多数。澤畑さんは「コカ・コーラ ボトラーズジャパンさんのポップな企業イメージが、地域課題を解決する活動の見え方を変え得るのでは」と話します。一方、ワカツクや推進課が知る若者団体の情報や現状は、企業にとっては見えにくかったもの。遠藤さんは話し合いを重ねる中で、「若者や地域課題に真摯に向き合おうとすればするほど、3者協働は必然だった」と力を込めます。

若者が活躍できる社会を目指して

推進課の熊野志穂さんは、「若者たちと地域とのつながりを生み出し、仙台に愛着を持つ若者を増やしたい」と願いを込めます。一次審査を終えた遠藤さんは、「エントリーいただいた学生たちの社会課題解決に向けた熱意に驚いた」と敬意を抱き、表彰という形で応援できることに意義を感じています。渡辺さんは、「若者が地域で力を発揮しようとするとき、支えるのは支援団体だけでなく、企業や行政、地域全体の役割です。関わる主体が増えれば、若者や社会に還元できるものも大きい」と、若者が活躍できる社会を描きます。(取材・文 松村翔子)

ポスト・ボランティア論 日常のはざまの人間関係

著者：原田隆司 発行：ミネルヴァ書房

著者の阪神大震災のボランティア経験や複数の事例を通して、ボランティア活動を「する側」だけでなく、それを「受ける側」の視点で書かれた本です。活動の発端は、「受ける側」の「望み」、つまりニーズです。「する側」はそれに応えるため、「受ける側」と対話と試行錯誤を繰り返します。この共同作業が、ボランティア活動の核心です。「ボランティア」を問い直すきっかけとなる一冊です。



SOUP STAGE ミクストジャーニー

NPO法人エイブル・アート・ジャパンでは、障がいのある人もない人も共に、ワークショップを通して一つの舞台を創作しました。身体表現されるそれぞれが持つ魅力を感じてみませんか?予約はwebから。
実施日：2月17日(土)18日(日)14:30~(開場14:00) 会場：青葉の風テラス
チケット：一般2000円 高校生以下1000円 小学生以下 無料
問い合わせ：NPO法人エイブル・アート・ジャパン東北事務局(武田)
TEL 070-5328-4208 Mail soup@ableart.org
HP http://stage.corich.jp/stage/88508



一人で過ごすもよし、仲間と過ごすもよし。 中高生の居場所〜のびすく泉中央4プラ〜

施設スタッフと一緒にイベントを開催したり、音楽・ダンスのワークショップ体験をしたりしながら、新たな仲間と出会うこともできます。「まずは見学だけ」でもOK。学生証を持って、気軽に訪ねてみてくださいね。
問い合わせ：のびすく泉中央 TEL 022-772-7340
休館日：月曜・祝日の翌日及び年末年始
利用時間：10:00~19:00
HP http://www.nobisuku-izumi.jp/chuko/chuko.php
住所：泉区泉中央1-8-6



ラインダンスは縦横の列に並び、短い振り付けを繰り返すダンスです。基盤の目に並んだダンサーが、カントリーミュージックやポップスに合わせて踊る姿を見ると、思わず体が揺れてきます。初めて参加する人もすぐに覚えられる気軽さが特徴です。NPO法人J-PAL(ジェイパル)は、ラインダンスの普及を目的に、仙台を中心に活動する団体です。講座やイベントで参加者と一緒にラインダンスを楽しんでいます。



▲大勢と一緒に踊れるのもラインダンスの魅力のひとつ

代表の元木節子さんがラインダンスと出会ったのは、1992年のアメリカ。友人にも楽しさを伝えたいと思い、帰国後ダンスサークルを始めました。より多くの人に広めるため2006年に任意団体J-PALを設立。ラインダンスを通じた健康増進や母親の居場所づくりに可能性を感じ、2016年に法人格も取得しました。みやぎ県民大学自主企画講座にて、子どもを持つ母親向けに託児つき講座を開催し、新しいスタートを切りました。

「これからはもっとみなさんの近くにラインダンスを教えられる人を増やしたい」と元木さん。指導者育成にも注力します。運動が苦手な私ですが、取材ではみんなと一緒に踊ることで、盛り上がることができました。この達成感を多くの人に体験してもらえよう、身近にラインダンスへ取り組める環境が増えるといいなと感じました。

■連絡先
NPO法人J-PAL
代表理事 元木節子
TEL 090-6253-4417

市民ライター 阿部哲也